

人とペットが作る笑顔あふれる社会のために

マスターフーズ News Letter

August 2007

「高齢者の健康増進に果たすペット効果」

9月17日は敬老の日。ご長寿の方々から健康の秘訣をお聞きできる機会も増える時期です。マスターフーズリミテッドが設立した、人とペットの共生に関するリサーチセンターである非営利団体CAIRCが協力した数多くの研究の中にも、高齢者の健康維持におけるペットの効果について科学的視点で解明しようとしたものがいくつかあります。

そのひとつが、高齢者の日常生活能力におけるペットの効果について、高齢者福祉の研究者である齊藤具子氏による「在宅高齢者におけるコンパニオンアニマルの飼育と手段的日常生活動作能力との関連」という研究です(2003年)。高齢者の日常生活能力を指数によって分析したもので、ペットとの接触がある高齢者ほど、日常生活能力が高く、また改善の度合いが大きいという傾向を見出しました。特に、ペットへの愛情表現を積極的に行うなど、ペットとの関わりが大きいほどこの傾向が高いということも判明しました。

また、酪農学園大学獣医学部所属の本岡正彦先生をはじめとする研究チームは、「ペットが高齢者の健康に及ぼす効果」という研究を行いました(2005年)。人間はストレスの少ない状態にある時、自律神経のひとつである副交感神経系が活性化することから、この神経系の活性化を分析することで、ペットの持つ癒し効果の科学的解明を試みたものです。犬との散歩時や犬の訪問時の高齢者の副交感神経の活性化の変化を観察し、その結果、犬との散歩時また犬の訪問時にこの値が有意に高まりました。特に犬との散歩時においては日を追うごとにこの活性化が促進されるなど、ペットとの生活が人の健康に与える効果が科学的に立証されました。この研究は、オーストラリアの権威ある医学会誌の一つであるThe Medical Journal of Australiaにも紹介され、世界的にも注目を集めました。

この研究を行った本岡先生は、「高齢者の健康とペットに関わる研究分野は、医学や保健学の最先端分野であるというよりも、社会のニーズとして求められる最前線の分野であるべきものだと思います。高齢化社会や核家族化が進む中で、ペットに求められる社会的役割も変化しており、こうした研究が予防医学や看護・福祉の分野で一つの役割を担っていく時代が来ているのではないのでしょうか。そのためにも誰もが感覚的には気付いているペットの精神的、生理的効果を科学的に立証し、その科学的根拠をもとに、ペットに対する正しい理解が促進されることを期待しています」とコメントしています。高齢者の健康を考える上でも、ペットはなくてはならないパートナーとして認識が進みそうです。

マスターフーズリミテッドは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マスターフーズが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に1997年に設立したリサーチセンターである非営利団体CAIRCとマスターフーズ・オーストラリアのコンパニオンアニマルに関わるリサーチセンターPIASと協力して発行しています。

お問い合わせ：マスターフーズリミテッド 広報室 電話 03-5434-3311

2007年08月09日
マスターフーズリミテッド